

軍事態勢を強化へ

NATO首脳会議閉幕

【マドリード＝吉本博】

【マドリード＝吉本博】北大西洋条約機構（NATO）首脳会議が6月30日、閉幕した。会議では、12年ぶりに改定した行動指針「戦略概念」でロシアを「最大の脅威」と位置づけ、初めて中国への懸念を示すなど対抗意識を全面に打ち出しました。北欧のフィンランド、スウェーデンの加盟手続きが前進するとともに、今後、東欧やバルト諸国を中心、「冷戦以降最大」の軍事態勢の強化に踏み出します。

▼関連③面

ストルテンベルク事務総長は閉幕後の会見で、「この数十年で最も深刻な安全保障状況と直面している」の根本的な改革に合意した」と述べました。日本を含むインド太平洋地域のパキスタンとの関係強化など会議での一連の成果を紹介しました。

ストルテンベルク氏は、ロシアによる侵略に直面す

るウクライナが「歐州の独立主権国家として存続できるよう」支援を強めると強調。他方で、紛争がウクライナ以外に広がり「ロシアとNATOの全面戦争」にならないようしなければならないと述べました。

バイデン米大統領も同日に打診しました。北欧のウクライナ侵略によってNATOの結束が強まったと発言。戦争長期化に備えてウクライナに、「必要な限り」支援を続ける姿勢を示しました。また武器輸出や防空システムなどの戦力（約一千億円）規模の追加軍事支援を行うと述べました。

来年の首脳会議は、リトアニアの首都ヴィリヌスで開催されます。